

第680回番組審議会報告

2023年7月4日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員、木戸哲委員、
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
奥田報道情報局長、橋本番組センター担当部長、澤田プロデューサー、
柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

「映像'23 バッシング 陰謀論と情報戦」について

(2023年3月26日(日) 深夜0時50分～1時50分放送)

【概要】

ある弁護士のもとに見知らぬ人物たちから次々に懲戒請求書が届く。弁護士の懲戒請求が大量に行われた背景には、あるブログの存在があった。番組では、弁護士懲戒事件に加え、基地問題を巡って執拗に続けられる沖縄県民へのデマ、ヘイトの背景にもスポットを当て、日本は「台湾有事」に備えた「次なる戦前」へむけた情報戦が始まっているのではないかと問題提起する。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *非常に重たくて深刻なテーマに正面から切り込んだ良質な番組だ。すごく地道な努力を重ねて作られた番組だと思う。
- *大変問題提起の多いすばらしい番組だ。普通の一般人が陰謀論に染まって、普段なら絶対しない懲戒請求をするのはホラーだと思った。
- *取材に対して女性が非常にエキセントリックな対応をしている場面があったがそのような映像は特殊な人たちがやっているという印象を与えて、問題の本質を歪め矮小化するのではないかと危惧した。こういう情報を信じる人たちはこんな人たちですよと対立を煽るような構造になっていないか少し心配になった。

- * 「心の隙間に入り込む陰謀論」という締め言葉が出てくるが、どうしてそういう考えにはまっていくのか、もっと丁寧に陰謀論が生まれてくる背景や理由を描いてほしかった。
- * ブログを信じて懲戒請求をする人たちの話と、猿田さんや元自衛官が語っている内容を結びつけるのには少し無理があるのではないかと見ている人が勘違いしかねない。少なくとも番組でそういう事実があるわけではないので、懲戒請求の話に絞ってやったほうがよかったのではないかと。
- * オールドメディアへの不信や失望が増えてきたため、より偏った情報に信頼を置くのではないかと。報道に対する信頼性や尊敬が根底にあれば、ネットにたくさんあふれている陰謀論に振り回される人たちも減るのではないかとこの気がする。
- * うまく離脱できた場合はどうやってその人が離脱したのかなどの取材も期待したい。
- * ドキュメンタリーが好きな人やもともと問題意識のある人が見るとあのスピードでもわかるかもしれないが、関心がない人にこそしっかり丁寧に届けようとするなら、もっと説明のテロップなどがあつたほうがいいのではないかと。
- * 身近な人が陥るかもしれないテーマなので、主婦層など広く見てもらえる時間帯にも放送できるといいと思う。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 市井の人々がブログの影響でやっていることと、これからの有事を想定した国レベルの話が次元が違ってうまく結びつけられていなかったという指摘はその通りかもしれないと思う。
- * 一般の人か特殊な人かという区切りは非常に難しい。番組の趣旨としてはブログを信じ込んでこのような行動を起こす人がいると伝えることが目的であり一般の人か特殊な人かという区別を特に強調して伝えようという意図はなかった。

*具体的な事例を説得力を持って視聴者に提示することがジャーナリズムとしての使命なので、取材の仕方や見せ方、編集方法を含めて、今回の番組に対する指摘を現場と共有し次に活かして行きたい。

以 上